

「あまみエフエム ディ！ウェイヴ」^{ほうそうげんこう}放送原稿（3月29日（金）放送分）

テーマ 新着図書紹介

あまみエフエム ディ！ウェイヴをお聞きの皆様，おはようございます。^{か ごしまけんりつあま}鹿児島県立奄美^{み としよかん}図書館です。

今朝は，^{あまみとしよかん}奄美図書館の新着図書についてご案内します。

まずは，一般書のご案内です。

直木賞作家，^{きうち のぼり}木内昇さんの初エッセイ集『みちくさ道中』です。人生，思い通りにいかないところにドラマがある。迷ったり，立ち止まったり，より道したり。まっすぐ働く姿をみつめ，ひっそりと暮らす日々の様子が綴ってあります。「道草の連続が，今の私を形作っている」という著者の明朗かつ飄^{ひょうひょう}々とした語り口で，肩の力を抜いてとても読みやすい1冊となっています。

普段から当たり前のように思っていることを子どもから質問されて困ったことはないでしょうか。

^{つぼうちちゆうた}坪内忠太さんの『大人にウケる子どもの質問』は，「子どもの質問」がそのまま大人の「素朴な疑問」になっているような雑学を集めた本です。例えば，「なぜ，空は青いの？」「なぜ，雲は空に浮かんでいるの？」「なぜ，海があるの？」「なぜ，タイヤは黒なの？」などです。大人も子どもも一緒に楽しめる1冊です。

次は，児童書をご案内しましょう。

^{たわら まち}俵万智さんの『富士山うたごよみ』です。この絵本は，奇想天外な絵，みずみずしい感性の短歌と文からなる画期的な絵本です。日本人の心の故郷である富士山をモチーフに，^{りつしゆん}立春，^{たいしよ}大暑，^{しゅうぶん}秋分，^{とうじ}冬至などの「二十四節気」という古来，中国から伝わってきた暦の順で描かれています。日々の生活を楽しくする言葉が湧き出てくる本です。

^{こはら まゆみ}小原麻由美さんの『じいちゃんの森』です。小学校三年生になる春休み，たいちは，ぜんそくが良くなるようにと，田舎にあるじいちゃんの家で家族みんなで引っ越しました。それからというもの，たいちは，じいちゃんが「森おやじ」とよんでいる大きなクヌギの木のとこに，毎日のように連れて行ってもらい，そこで，いろいろなことを学びます。ところがある日，じいちゃんは森の見回りに一人で行ったきり戻らず，亡くなってしまいます。お葬式の日，たいちはふとしたことから，じいちゃんが残していた「森おやじの日

記」を発見するのですが・・・「古い物は大切に作る。新しい物には挑戦していく。そうすれば、森は生き続けることができる」というじいちゃんのことを思い出し、たいちがとった行動とは・・・。命をつないでいくことの大切さを教えてくれる本です。

最後は郷土に関する本のご案内です。

根ヶ山^{ね が やま}光一さんの『アロマザリングの島の子どもたち』です。アロマザリングとは母親以外による養育のことです。近年、育児を母親だけに負わせる危うさが指摘されていますが、沖縄の離島・多良間島^{た ら ま じ ま}は、伝統的に地域の中で子どもが多くの人に見守られて育つ、まさに「アロマザリングの島」なのです。不便さ、モノの乏しさゆえに、人は人に手を差し伸べ、それが子どもの世界を生き活きと豊かにするのです。発達行動学の研究者である著者は、島の人々と生活を共にしながら、都会では失われた子育ての原点を随所に発見していきます。個人化し孤立化する現代人の生き方の問い直しにもつながる深い問いかけにもなっています。

引っ越しシーズンで慌ただしい時期ですが、読書で息抜きをしてみてはいかがでしょうか。

かごしま^{かごしま}けんりつあまみとしよかん
鹿児島県立奄美図書館でした。